

飼料タンク増設および飼料搬送能力強化による飼料流通合理化の取組

鹿児島サンフーズ飼料流通協議会

★はじめに★

物流業界における労働時間削減を目指した働き方改革関連法(物流の「2024年問題」)により、効率的な配送およびドライバー作業負担の軽減が求められています。特に、配合飼料輸送においては、ドライバー確保が困難な状況であり、安定的かつ効率的な輸送体制の確立が必要不可欠となっています。

当協議会では、これまで車両同士の待合せによる積替え作業や、小型バルク車への荷積に時間を要していたため、農林水産省の『令和6年度飼料穀物備蓄・流通合理化事業のうち飼料輸送効率化支援事業』を活用し、飼料タンクの増設および飼料搬送能力の強化を行うことで、ドライバーの負担軽減および飼料輸送の効率化を検証した結果、流通合理化に資するデータを得ましたのでご紹介させていただきます。

★検証内容★

- ①飼料タンク増設による待合せ時の待機時間(=就労時間)削減の効果検証
- ②飼料搬送能力強化による荷積時の待機時間(=就労時間)削減の効果検証
- ③待機時間削減によるCO₂排出量削減の効果検証

★検証結果★

設備導入により、バルク車同士の待合せ時間や荷積時の待機時間が減少しドライバーの就労時間を軽減することができました。またアイドリング時間減少によるCO₂排出量の削減にも効果がありました。【表】

★おわりに★

当協議会では飼料流通合理化に関する取組を継続・強化するとともに、同様の飼料輸送体制整備により各地で発生している飼料流通に関する課題解決の一助になることを期待しています。

【表】 導入前後の飼料輸送状況

		導入前	事業目標値	導入後
飼料タンク増設による待合せ時の待機時間削減 ⇒大型ドライバー就労時間(飼料トナリ)の削減		25.6分/t	22.5分/t ▲12%	22.5分/t ▲12%
飼料搬送能力強化による荷積時の待機時間削減 ⇒小型ドライバー就労時間(飼料トナリ)の削減		12.6分/t	11.3分/t ▲10%	11.2分/t ▲11%
上記によるCO ₂ 排出量 (飼料トナリ)の削減 ※炭素換算	大型バルク車	409g~563g/t/月	359g~495g/t/月 ▲12%	359~495g/t/月 ▲12%
	小型バルク車	201g~276g/t/月	181g~248g/t/月	179~246g/t/月
			▲10%	▲11%